



19940716
[9403]
総12号
発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

酷暑の候となりましたが学区内の皆様にはお変わりなくご精進のことと存じます。

早速ながら、見出しの件につきましては昨年来、各方面より建立について強い要望があり、種々検討の結果、本年度の「事業」の重要課題として掲げさせていただきます。

設置の必要性について主な意見をまとめますと、次のとおりです。

- 一、現在、桂坂学区内の自治会は八自治会あります。人口の増加にともない、将来は一六自治会となりますが、これを束ねる拠点がありません。
- 二、京都市の行政を受け継ぐ西京区内の各種団体は、約二〇〇団体あります。その下部組織である学区内の支部も、積極的に活動を展開していますが、これらの「受け皿」となる場所がありません。
- 三、自主防災会の発足にともない、標旗・ヘルメット・担架・救急箱など、資材が年々増加していかかかわらず、これらを収納する場所がありません。
- 四、他の学区内では、「老人ハウス」が設置され、市からの援助を受けながら日常活動をエンジョイしています。しか

自治連合会会館(仮称)の建立について

桂坂自治連合会 会長 菊池潤治

し、桂坂学区には「老人ハウス」の看板等の出しておける固定の場所がないため、認可を受けることができず、困っています。

五、その他、各種の会合、サークル活動については、今は主に中央信用金庫の会議室を借用して、大いに助かってはいるものの、この使用し得る日時は、原則として平日の営業時間内に限られているので、土、日、祭日等には使用できないのが現状です。

以上を踏まえ、この程、「桂坂自治連合会会館建立準備委員会・同実行準備委員会」を発足させ、京都市および西洋環境開発、住宅生協、住宅整備公団等への陳情を行う予定ですので、この間の経緯とともに見解を整理してみました。

もとより大きな計画でございますので、これが達成には、かなりの年月が必要と思えます。が、念願の第一歩を踏み出すことが必要であり、着実に、一歩一歩と前進していきたくと考えておりますので、学区内の皆様方におかれましては、何卒、この主旨をご理解いただきましてご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



花火は夏の風物詩

ただと……

その翌朝の庭の屑

この高浜虚子の句は、前の晩に一家そろって花火に興じ、親も童心に返って子とともに次から次へと「命継ぐごとく」花火を燃やしていった、その名残が「庭の屑」として即興的に把えられたものでしょう。

しかしこの句では、翌朝のホウキを持つ親の手も重いはずありません。子とのふれあいに味わった満足感の表情さえ目に浮かべることもできます。

しかし、です。この「花火」遊びも、「風物詩」の微笑まじさを大きく越えてしまつて、他人に迷惑をかけるようではいけません。

このところ「花火」遊びに因る苦情が相繼いでいます。

たとえば、桂坂郵便局の白壁が焦がれたり、ふれあい会館の「散策の森」にある公衆便所が同じように黒く焼かれた上に、一帯を汚されたり、といった被害です。「手花火」の域をこび出してしまった人たちの仕業でしょうが、環境破壊の何ものでもありません。

「住環境を守る」——やはり親子そろって、「手花火」の輪の中で考えていきたいことです。

気候としては梅雨でしょうが、夏日を思わせる六月一七日の見学会となりました。

まずは、私たちの住む地域を知ろうという主旨で企画されました授産園とふれあい会館の見学です。

授産園とは、ご承知の通り精神薄弱者福祉法に基づき、雇用されること困難な人々が通園し、社会人としての自立を目指されている仕事場です。現在は約五〇名の方々が通っておられるそうです。仕事としましては、陶芸、浴衣織り、クリーニングなどの作業をされています。

園長さんのお話から、クリーニングの受注や作品の販売経路の拡大など、職員の方々の苦勞や、園生の通所に対してのバス利用の際、一般の方々先に乗っていただくなどのお心配りを感じました。地域と連携

近隣施設を見学して 女性会 大倉登喜子

し、地域社会に求められる施設づくりをめざすべく、いつでもご訪問くださいと結ばれました。この授産園では毎日、素敵な作品が生まれていることでしょうか。さて次は、ふれあい会館へと移動いたします。

玄関を入りますとホテルを思わせる清楚なロビーが目に入ります。一階は喫茶・レストランと録音装置つき研修室、二階は大広間や健康増進室、三階は宿泊施設と大変整った設備になっています。身近にこんな憩える会館ができました。皆様には大いに利用されることをお勧めいたします。

その後、大広間での食事はおしやべりに花が咲き、和やかなうちに参加者約六〇名の女性会はお開きとなりました。

桂坂体育振興会主催 バレーボール大会

アタックNO.1は はなみずきと白川泊公園

七月三日、七夕かざりの飾られた桂坂小学校体育館で、体育振興会が主催するのあったチームプレーの応酬となりました。

一ボール大会が行われ、さかんにボールを追いかけ、見事相手コートに目の覚めるアタックが決まると汗かいてください」と永江チビッコを中心に盛んな声援が送られていました。

昨年度優勝チームのはなみずき自治会より優勝杯の返還がおこなわれました。

一チーム六名、前衛は女性に限るというルールがあり、ほとんどのチームが、男性3名、女性3名で構成されていました。

「ビュー」という笛の合図で試合開始。

バックアタックあり、移動攻撃ありとかなりハイレベルな試合展開となりました。

桂坂の北西に位置している「あかしあ自治会」は、南にマンション、西に公園グラウンド北に「ふれあいの里」に囲まれた北番掛二丁目の住人百三十五世帯で構成されています。

「みんなのための自治会」を目指して発足して、今年で六年目のこの自治会は、桂坂の中で最も小さな自治会です。

しかし、いろいろな活動に積極的に参加、協力して下さる人達に支えられて、毎年活発な自治活動を行うことができております。

主な活動は、夏祭りウォークラリーと焼肉パーティー、餅つき、毎月一回のクリーンデー

あかしあ自治会

など、それに加えてテニスやソフトボール同好会等への援助も行っております。

現在、夏祭りに向けて役員一同一丸となって取り組んでいるところで、昨年から引き続き隣の「はなみずき自治会」との共催です。

また、「ふれあいの里」のご協力による無農薬野菜等の販売も検討中です。

今年もまた自治会の会員の皆様のご協力を得て、会員の皆さん(特に子供たち)に喜んでもらえる夏祭りになるのと思っています。

中川 敬三

自治会紹介

スカンジナビア半島の東半分を占めるスウェーデンは社会福祉、男女平等、武装中立などで世界をリードする先進国です。前回のデンマークの北にあり、北極圏にあって、一番きれいな街だと説明されまし

道路網が整備され、人間と自然の調和をはかりながら、近代的な都市計画に従って造られた高層ビルが建ち並び、湖と島は橋で結ばれている、世界で一の七分の一は北極圏にあって、一番きれいな街だと説明されまし

ご存知ですか 大枝の児童館って 桂坂学区 民生児童委員協議会

「大枝児童館」は、小一年生から三年生までの留守家庭の児童を放課後に預かる「学童保育」の場と、零歳から一八歳までのだれもが遊べる場を、特別のこと以外は無料で提供しています。桂坂小学校およびPTAのご協力のもと、学童保育には二七名の小学生がお世話になっております。

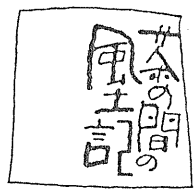


ご参加ください。そして、地域のふれあいの輪を拡げていかれることをお勧めします。 民生児童委員 奥崎裕子



ふれあいの里の最後の訪問になった今回は、開校九年目を迎えた西養護学校を訪ね、浅井正彦校長にお話をうかがいました。

現在、小学部 五十五名、中学部 三十九名、高等部 八十七名、計百八十一名の児童・生徒が在籍しています。四台のスクールバスによるバス通学の他、高等部では市バスなどで自主通学もしています。通学区域は堀川以西に在住する児童・生徒ということですが、遠い子は毎日、一時間以上もかけて通学しているそうです。

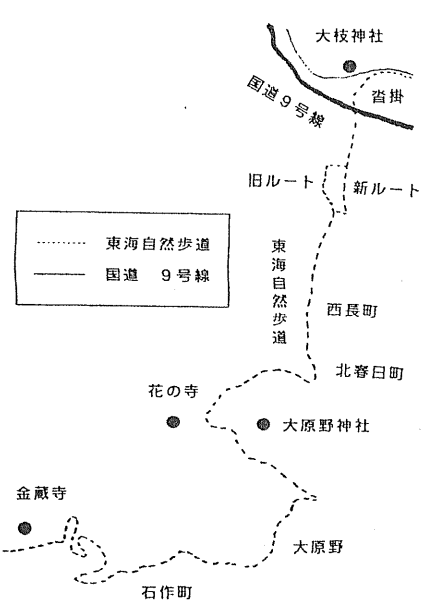


II 歩道自然歩 東海

ため、車が多く、道幅も狭い新ルートには、反対の声もあるようですが、今回は、行きは旧ルート、帰りは新ルートを通ることにしました。 何軒も並ぶ野菜の即売所の一軒で、店の方に旧ルートの道を尋ねました。教えられた通りに西へ折れて、再び南進、花の寺へ向かいます。竹林と柿畑の中を歩くと、市内とは思えぬ静けさです。

復路は 大原野神社まで五kmのところから新ルートになった新道に帰りました。 桂坂口から片道約五kmのコースでしたが、いたるところに道標があります。 秋の紅葉の季節には、ご家族で大枝・大原野の散策をなさってはいかがでしょう。

松尾大社からスタートした東海自然歩道の一人旅、今回は大枝小学校からのスタートです。 桂坂の街を右に見ながら旧街道を西へたどります。 大枝神社の手前「香掛停留所」で南へ曲がり、小畑川を越えて国道9号線を横断。そこからは大枝西長に通じる一本道へと続きます。 この先は、二年前から一部、府によって、ルート変更されているそうです。旧ルートが「京都第二環状道路」の計画ルートと重なる



開校以来、一学級、一担任、一教室で運営されているようですが、それが一人ひとりの発達や障害の実態に即した、きめの細かい教育となっているのではないかと思います。 小学部では、健康な体づくりと基本的な生活習慣を繰り返し学びます。 中・高等部ではその他に園芸班、陶芸班、紙工班、

▼みなその月の上よりこぐ舟の棹にさるは桂なるらし 水底に映る月の上をゆく舟の、棹に触るのは「桂」のようだというこの歌は『土佐日記』の土佐は室津の記事に見えるもの。 また、一ヶ月後の二月十六日には、四、五年ぶりに帰る京を目前にしての感慨が歌に詠まれています。 久方の月におひたる桂川底なる月も変はらざりけり。 ▼私たちが月に兎を想い描くように古来、月には、香しい「桂」が生えているとの伝説が中国にあり、この二首もそれを踏まえています。 後者は更に「生ひ」に「負ひ」を掛けて「月に生ひたる桂」を名に持つ「桂川」を美化しています。 ▼ところで、広報「桂坂」の「桂」は、宋の蘇東坡・黄山谷と親交のあった米芾(べいふつ)の『中秋海岱樓に登りて作る』と題する七絶の結句、「桂枝撐損向西輪」から採ったもの。 天上にも「修月の戸」、つまり月面凹凸の修復を司る八万二千の人たちがいるければ「桂枝 撐(ささ)へ損はん 西に向かひて輪(めぐ)るを」の意。 ▼「桂宮」「桂輪」「桂月」はいずれも月の異称。「桂枝」また月の意にも用いられます。「七宝合成」は月光の美しく輝くさまを形容しますが、二五の月であれ十六夜の月であれ、それを賞つるに相応しい、月の似合う「桂坂」が名実ともに現出すればと思います。